

トヨタ財団

2012（平成 24）年度 研究助成プログラム

募 集 要 項

「よりよい未来を築く知の探究」

本プログラムでは、人や自然・文化をめぐる新たなつながりを見出し、人々が互いに支え合う心豊かな社会の実現を目指す研究への助成を行います。

募集期間：

Web提出

2012年4月16日（月）～2012年5月18日（金）17時

郵送等提出

2012年4月16日（月）～2012年5月17日（木）当日消印有効

2012年4月

I プログラムの趣旨

トヨタ財団の研究助成プログラムでは、民間財団としての独自の視点から、柔軟な発想にもとづく先駆的な研究に対して助成を行ってまいりました。今年度は昨年度に引き続き、基本テーマ「よりよい未来を築く知の探究」のもと、社会的意義の大きな研究を募ります。

今日私たちが生きる世界は、科学技術の発展やグローバル化の進行の一方で、自然環境の破壊、財政・金融危機の頻発など複雑な要因が入り組む多くの課題に直面し、世界的な規模でパラダイムの転換を迫られています。特にアジアや地域コミュニティにおけるきずなのありようが急速に変貌するなか、私たちの次の生き方を探るべく上では、研究に求められる役割もまた、大きく問われていると考えます。

研究とは、私たちの知的好奇心から出発し、世界のありかたを根源的に問い、また実際に世界を変えてゆく力ともなる営みです。まだ社会に広く認められてはいなくとも、試行錯誤から生まれる研究の成果は私たちの文化に奥行きと豊かさをもたらし、次の発見を導くための土壌となるでしょう。また既に多くの人々に共有された諸々の社会的課題に対しては、研究が解決のためのより直接的な行動の源として、その道筋を力強く示してゆくことも期待されています。

以上の問題意識から、私たちは「社会の新たな価値の創出をめざす研究」、および「社会的課題の解決に資する実践的な研究」という2つの枠組みで共同研究を募ります。また、次代を担う研究者を支援する目的から、個人研究も募ります。

いずれの枠組みでも人や自然・文化をめぐる新たなつながりを見出し、人々が互いに支え合う心豊かな社会の実現を目指す意欲的な研究を求めます。

国籍や居住地、所属を問わず、研究者や実務家、在野の活動家など、その知見を社会に敷衍してゆく意欲に溢れたすべての人へ門戸は開かれています。皆様の積極的なご応募をお待ちしています。

II 助成の枠組み

下記の通り、＜カテゴリ-A＞ 共同研究助成（1または2）および＜カテゴリ-B＞個人奨励助成の合計3つの枠組みで募集を行います。それぞれ企画書の様式が異なりますのでご注意ください。

なお、東日本大震災による被災地の復興に寄与する課題解決型の実践的な研究に関しては、東日本大震災対応「特定課題」政策提言助成の募集要項をご参照の上、そちらへのご応募をご検討下さい。

＜カテゴリ-A＞ 共同研究助成

1. 社会の新たな価値の創出をめざす研究

この枠組みでは、各自の好奇心やこだわりに基づく多様な研究メンバーが協働し、まだ皆が気づいていない、新たな社会的価値を探ろうとする共同研究に対して助成を行います。既存の学問領域や有用性に囚われず、社会に新たなパラダイムを提示しうる、視野の広い研究を期待します。

＜対象となりうる研究例＞

- ・異なる背景や立場にある者同士の対話による新たな概念の形成と発信
- ・文化や風土、くらしのなかに埋もれていた知恵や知識の可視化
- ・思想的・哲学的な課題の探究を通じた問題提起、新しい学問領域の深化 など

＜期待される成果等＞

ここでは多様な視点の融合を通じた意図せぬ研究の展開や、試行錯誤を尊重します。ただし研究のみで終わることなく、その成果等が広く社会的に共有されるための適切な発信方法が求められます。

2. 社会的課題の解決に資する実践的な研究

この枠組みでは、国内外の具体的な社会的課題について、各研究メンバーの専門性や強みを活かしてその解決をめざす共同研究に対して助成を行います。重要な社会的課題の本質を適切に捉えた上で、現状の局面を打破し、望ましい未来の実現に寄与する実践的な研究を期待します。

＜対象となりうる研究例＞

- ・感染症や気候変動、環境破壊、人の移動に伴う国際的課題の解決に向けた制度設計
- ・民族紛争、格差の是正など地域間における課題の解決に向けた政策提言
- ・コミュニティにおける社会的弱者の救済や経済再生に向けた実証的研究 など

＜期待される成果等＞

ここでは実際に社会的課題の解決を導く手段や方法の提案など、近い将来、実践的な場面での活用を見越した戦略性ある研究成果を期待します。

＜カテゴリーB＞ 個人奨励助成

次代を担う研究者を支援する目的から、主に若手や在野の方が個人で実施する研究に対して助成を行います。分野やテーマを問わず、自由で革新的な視点やアプローチで研究課題に取り組み、かつ研究者自身の将来に資する研究を期待します。

＜対象となりうる研究例＞

どのような分野、テーマ、タイプの研究でも構いません。

＜期待される成果等＞

ここでは、ポストドクターや客員研究員など実績が少なかったり、研究機関に所属しない在野の研究者が、自身の今後の研究、または活動の展開につなげられるような研究成果を期待します。

※ いずれの枠組みも応募者の国籍、所属、居住地などによる応募の制限はありません。

※ 応募者が所属する組織の間接経費や、一般管理費（オーバーヘッド）は、助成の対象になりませんので、ご注意ください。

◆ 助成概要図

研究種別	研究の性格	助成期間	助成上限額／件	助成予定総額
＜カテゴリーA＞				
共同研究 1	複数メンバーによる共同研究	2012年11月1日より1年間もしくは2年間	1000万円／件 (1年あたり500万円以下)	約4000万円
共同研究 2				約4000万円
＜カテゴリーB＞				
個人奨励	若手および在野の個人研究	2012年11月1日より1年間もしくは2年間	200万円／件 (1年あたり100万円以下)	約2000万円
合計				1億円

Ⅲ 助成金額、助成期間、報告書

◆ 助成金総額 1億円

◆ プロジェクト1件当たりの助成金額

<カテゴリーA> 共同研究助成1、2：上限額1000万円/件（2年間）
1年研究の場合、助成の上限額は500万円です。

<カテゴリーB> 個人奨励助成：上限額 200万円/件（2年間）
1年研究の場合、助成の上限額は100万円です。

※ 応募金額・内訳が研究内容に照らして適切かどうかについても選考の対象となります。
選考の結果、実際の助成金額は応募金額から減額となる場合があります。

◆ 助成期間 2012年11月1日から2013年10月31日までの1年間、もしくは
2012年11月1日から2014年10月31日までの2年間。

◆ 報告書類の提出

助成の対象となった研究プロジェクトについては、助成期間中およびプロジェクト終了後、
一ヶ月以内に「研究経過報告書」、「研究実施報告書」、「会計報告書（支出明細書・領収書
原本）」（所定用紙）などをご提出いただきます。

Ⅳ 当財団とのコミュニケーション

1. 助成開始(覚書の交換)

助成対象となったプロジェクトの主体（代表者）は、当財団と覚書を取り交わした上
で、それにもとづいてプロジェクトを実施することになります。

2. 相談、調整等

当財団のプログラム・オフィサーが、必要に応じ、代表者もしくは主要なメンバーの
方を訪問し、プロジェクトの進捗状況やその時点での結果の見通しなどについてお話を
伺います。

3. 報告会の開催

助成期間中もしくは助成終了後に、代表者や主要なメンバーの方にお集まりいただき、
プロジェクトの進捗状況や展望などについてご報告いただく場合があります。

4. 研究会、シンポジウム、フィールド調査時などの連絡

助成期間中、研究会、シンポジウム、フィールド調査など財団担当者が研究の進捗についてより理解できる機会がありましたら、事前にお知らせください。

5. 継続助成

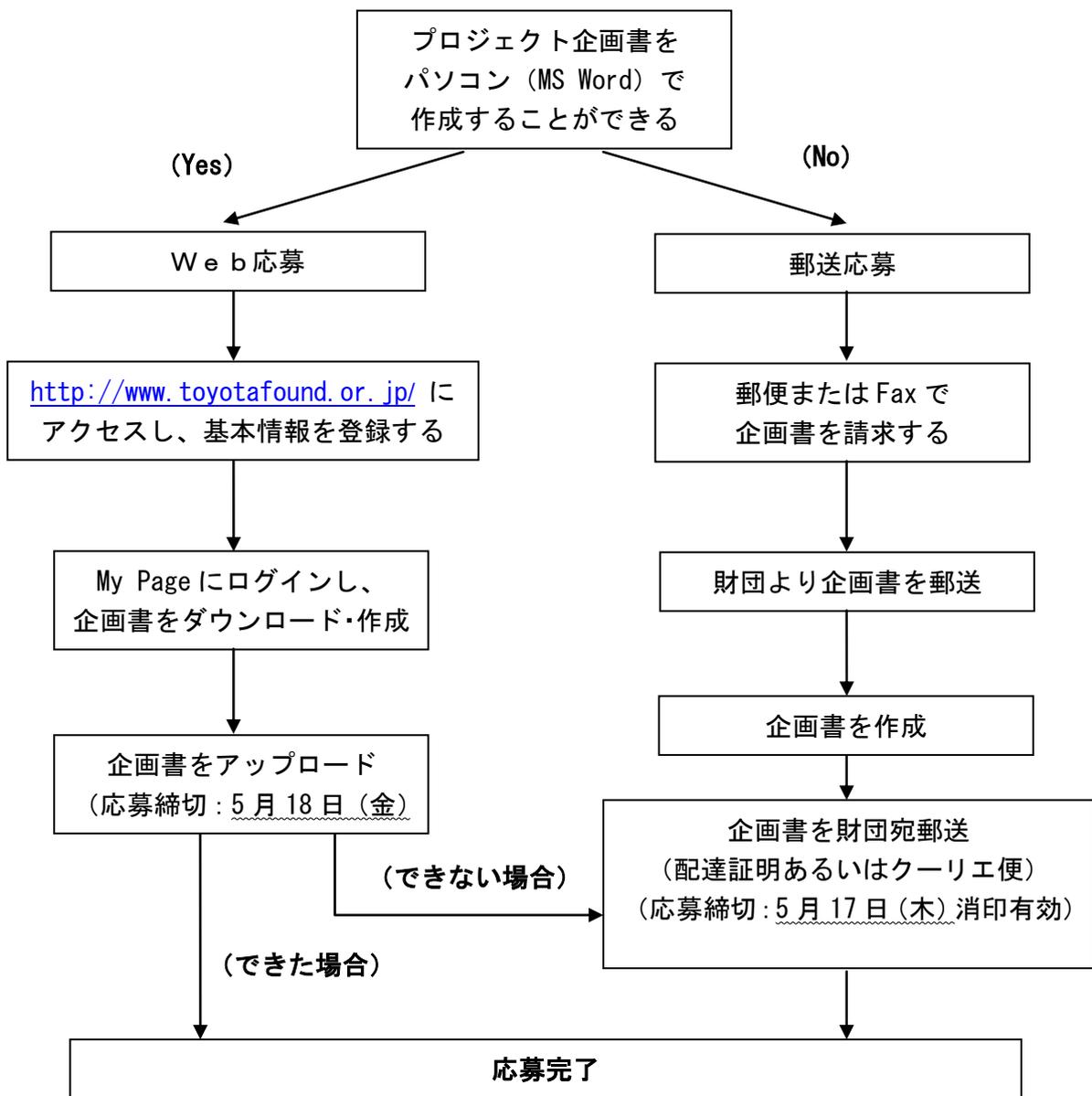
助成対象となったプロジェクトのメンバーでも、そのプロジェクトと関連性の高い新たなプロジェクトを企画し、次年度以降の本プログラム、または当財団の他のプログラムに継続助成として応募することは可能です。この場合、助成の可否は、通常適用される選考の指標に加え、コンサルテーションや中間・完了報告などを踏まえた助成プロジェクトの実施状況や結果をもとに、総合的に決定されます。継続助成を希望される場合は、事前に担当のプログラム・オフィサーへご相談ください。

V 応募の手続きおよび選考について

1. 応募方法

財団Webサイト (<http://www.toyotafound.or.jp/>) の「Web応募」ページより、応募手続きが行えます。詳しくはWebサイトの「Web応募ガイド」をご覧ください。

《応募手続きに関するフローチャート》



◆ Web応募をご利用いただけない方へは、下記要領にて企画書をご送付いたします。

【研究助成プログラム・企画書希望】と明記の上、「お名前・送付先住所・電話（携帯）番号」をハガキ又はFAXにて「企画書提出先（お問い合わせ先）」にお申込みください。お電話による申込みは、受け付けません。

なお郵送にて企画書をご提出する際には、必ずお手元に配達記録の残る〈簡易書留・特定記録〉または〈宅配便〉をご利用いただき、ご提出ください。

※ 財団への持参、FAXやE-mailによる提出は、受け付けません。

※ 紙面の追加、および財団所定の企画書（日本語・英語）以外の添付資料等の提出は認めておりません。

2. 募集期間

◆ Webによるご応募

2012年4月16日（月）～5月18日（金）17時（日本時間）

◆ Web応募をご利用いただけない方

2012年4月16日（月）～5月17日（木）当日消印有効

※ Web応募の場合と締切日が異なります。ご注意ください。

3. 選考方法

助成の可否は「研究助成プログラム選考委員会（委員長：桑子敏雄・東京工業大学教授）」にて選考を行った上、本年9月開催（予定）の理事会で正式に決定されます。選考は、主として提出された企画書の内容にもとづいて行われますが、必要に応じて、プロジェクトに関するインタビュー調査への協力や、プレゼンテーションの実施をお願いすることがあります。

4. 選考結果

選考結果については、上記の理事会終了後、速やかに応募者（連絡責任者）へお知らせいたします。電話による採否のお問い合わせはご遠慮ください。

5. 提出時および提出後の注意事項

提出時の注意事項

Web応募

- ◆ 締切時間近になりますと、回線が大変混雑し、送信（アップロード）できない恐れがありますのでご注意ください。
- ◆ Web応募の方は、下記の郵送等によるご提出はできません。また、同じ内容の企画書をWeb応募・郵送等の両方でご提出いただくことはできません。
- ◆ 必ずWebサイトの「Web応募ガイド」をご確認の上、ご提出ください。

〔郵送等提出〕Web応募をご利用いただけない方

- ◆ 応募に際しては、企画書（1部）のみご提出ください（添付資料は不要です）。
- ◆ 企画書は選考資料としてそのままコピーしますので、のり付けやホッチキスでの製本はご遠慮ください。
- ◆ 企画書を切り貼りして作成した場合は、必ずコピーしたものをお送りください。
- ◆ 企画書は片面印刷でのご提出をお願いします。両面印刷は認められません。
- ◆ 企画書右上の「受付番号」は事務局記入欄です。6月上旬頃に「受付はがき」にて「受付番号」をお知らせします。
- ◆ 5月17日（木）を過ぎた消印のある応募については、理由の如何にかかわらず受理いたしません。

提出後の注意事項

- ◆ 提出された企画書の差し替えは受け付けません。
- ◆ 提出された企画書の返却はいたしません。
- ◆ 企画書に虚偽の記述をしていることが判明した場合、仮に採択にいたっても助成を取り消すことがありますので、ご留意ください。
- ◆ 採否の理由に関するお問い合わせには応じかねます。

※企画書から得られた個人情報、選考および統計資料作成、応募者への連絡等事務作業に使用します。法令で認められる場合を除き、応募者の同意なく上記目的以外に使用することはありません。

企画書提出先（お問い合わせ先）

〒163-0437 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
新宿三井ビル 37階 私書箱 236号
公益財団法人トヨタ財団 研究助成プログラム
TEL : 03-3344-1701 FAX : 03-3342-6911
お問い合わせフォーム : <https://www.toyotafound.or.jp/inquiry/>

担当 : 渡辺（わたなべ）、村井（むらい）



公益財団法人 トヨタ財団